

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	平成30年8月29日	評価結果市町村受理日	平成30年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2190103743-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『その人らしい暮らし』が続くように、一人ひとりの思いをじっくり聴きながら、職員で共有し支援しています。発揮できる力は最大限に発揮していただき、できない所はさり気なく支援することで、ご利用者の尊厳を傷つけないように日々配慮しています。また、季節を感じられるよう、春にBBQ、夏にはスイカ割り、秋の味覚会、年末にお餅つきを開催しています。健康面では、訪問診療、訪問看護、訪問歯科と連携を図り、ご本人、ご家族が安心できるような体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ここ数年で、畑だった土地が住宅街になり、周りには若い住民が増えて環境が変化している。事業所も地域のゴミゼロ運動参加や、小学校の「みまもり隊」として、地域住民との交流に努めている。毎月発行される「彩り通信」は、カラー写真で利用者の様子を伝え、「サービス提供状況報告書」を同封して家族に郵送している。「サービス提供状況報告書」は、利用者の体重や日常動作の状態を詳細に評価し、家族にも分かりやすい内容である。職員研修も充実しており、ケアに必要な技術研修や、職員のレベルに応じた研修等に参加できる体制にあり、常に利用者目線で取り組んでいる意欲的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲げ、いつでも誰でも見られるようになっている。その人らしく生きるを理念にご利用者の生き方を尊重している。	法人グループの理念に加えて、事業所独自に2ユニット別々の理念を掲げ、居間や事務所に掲示している。理念は、書道が得意な利用者が書き、職員は常に意識しながら、利用者が毎日が穏やかに笑顔で暮らせるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	みまもり隊、回覧板、自治会に加入、みまもり隊に参加している。ご利用者と散歩や近所のスーパーに出かけて地域のつながりを大切にしており、すれ違う方や出会う方に挨拶等をきちんとしている。	自治会に加入し、地域行事であるゴミゼロ運動に参加している。今年は市民運動会に参加予定である。また、地域の一員として、配布されたタスキとジャンパー着用で小学生の「みまもり隊」の活動にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と近所に出かけ、散歩や買い物など日々の生活ぶりで認知症の方の理解や支援の方法を知ってもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開き、事業所の状況や取り組みを報告している。その時の話題やヒヤリハットについてのアドバイスや質問を頂くことで、生き活きとしたサービスに繋げている。	運営推進会議では、入居者の状況と日頃の活動、ヒヤリハット等を報告し、参加者からの意見や要望も積極的に聞いている。会議で話し合ったことを検討し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議議事録は、参加者の意見・要望と、それに対する取り組みの様子が書かれている。まだ少し、把握しづらい部分があり、引き続き書式の工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実情やケアの取り組みについては運営推進会議で報告している。その時の話題やひやりはつとについてのアドバイスや質問を頂くことでサービスに繋げている。	行政には事故報告や介護保険加算などで、相談に出向いている。困りごとがある時は、地域包括支援センターの担当者に相談し、助言を受けるなど、常に連携しながら協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会を開いている。2ヶ月毎に身体拘束をしない検討会議をユニット毎に開き、身体拘束をしない意識を全員で共有している。玄関の施錠については、夜間のみに行っているが、防犯上、事務所が不在の時は施錠をする場合もある。	隔月に、職員全員参加で『身体拘束「ゼロ」にしよう検討会議』を行っている。利用者の状態によっては、身体拘束につながるケースがある事を取り上げ、拘束を回避するための具体的な対策を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で年2回勉強会を開いている。また、全職員一人ひとりに虐待について、自身と他職員についての聞き取りを行い、虐待につながる前に解決できるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行って皆で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については法人代表、管理者が立ち会い、十分説明を行っている。また、ご利用者やご家族の不安や疑問点については、いつでも聞いてもらえば良いことを伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されており、だれでも記入できるようになっている。また、今年度中にはご家族様へのアンケートを準備中である。	利用者から、「パン食の希望」や「出かけたい」などの要望があり、出来ることから順に、実施できるよう努めている。玄関に意見箱を設置しているが、あまり利用が見られないため、今年度中にアンケートを実施し、運営に反映させていく予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別の意見でも、ミーティングで話し合い良いことは活かせるようにしている。	管理者は、日常業務の中で、いつでも職員から話を聞く姿勢で対応している。また、職員から出た意見や要望を会議で話し合い、検討、実践へと反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の昇給がある。法人内には委員会があり、取り組みについて代表者は評価を行い、各自向上心をもって取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や実務者研修などに参加するよう、働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では社員旅行などを通し、交流する機会を設けている。外部の同業者とはなかなか交流する機会が作れていないため、今後交流の場を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の前に、ご本人と面談を行い困っていることや要望などお聞きしている。そして入居直後は、ご本人が安心するまで必ず寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から要望等聴かせて頂いている。そして居室の準備段階から、職員もご家族と関わり、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただいた時に、まず必要な支援を最優先で行っている。医療であれば往診医につなげ、生活面の場合はご本人にどうしたいかを聞きながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員が力を合わせ、感謝しながら良い関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を見極めながら、ご家族と一緒にご本人を支えあっていくという気持ちで関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご兄弟やご友人等、お名前を会話に含めたりと忘れられないようにしている。また、次も会いに来ていただけるよう挨拶やお声掛けをしている。	利用者が、自由に家族や友人と出かけられる体制が整えられている。また、遠方の家族や知人に、暑中見舞いや年賀状、礼状等、本人が書いて送れるよう手伝ったり、携帯を持たない利用者は、事業所の電話で、直接知人と話してもらうなど、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子からご利用者同士の関係が築けるように支援している。職員の関わりが必要な場合は一緒に関わり、必要のない時は見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であればいつでも相談、支援に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からご本人の思いをくみ取ったり、聞いたりしている。ケアカンファレンスでは、ご本人の思いを再優先し検討している。	入居期間の長い利用者の意向は、これまでのコミュニケーションの積み重ねで十分に把握できているが、それで良しとせず、日々の変化を見逃さず、常に見直しや改善をしている。また、把握の困難な人には、家族に相談し、本人本位の暮らしに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中などからヒントを見つけ、職員で共有できるように記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの記録を残し1日の生活が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員全員に意見を聞いている。ご家族や主治医、訪看、薬局等からの意見を参考にし、アイデアを出しながら介護計画を作成している。	家族や利用者本人にも意見を聴き、医師、訪問看護師、その他の専門職の意見を参考に、介護計画を作成している。また、利用者の状態と要望を、その都度把握し、ケアにつなげられるよう柔軟な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録を残しており、必要であればアセスメント用紙にも記入して情報共有し、介護計画にも反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズはすぐに職員間で共有し、その時にできる事アイデアを出し合い取り組んでいる。柔軟な対応がいつでもできるように一人で考えず、チームで取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を回したり、小学生のみまもり隊をしている。好物が食べられるように近所のスーパーで買物している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、訪問看護、歯科往診をしっかり受けている。往診時は、いつも様子をお伝えしている。各々適切な医療が受けられるように支援している。	週1回の訪問看護師による健康観察があり、月2回の主治医の往診時には、利用者の細かな変化を伝えている。病院への受診は、家族送迎が基本であるが、緊急時や家族の事情により、職員が付き添う事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問があり、ご本人が伝え切れない痒み、痛み、いつから等症状をお伝えしている。また急な時にはいつでも電話できる関係である。訪問時には助言を頂いたり適切な受診へとつなげられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医に情報提供をお願いし、入院先と連携に努めている。入院先にはこまめに足を運び、病院関係者と情報交換し、早期退院の受け入れが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居時に説明し、ご家族に方針をたててもらっている。入居後は、適宜事業所の出来る事を説明し、方針を見直してもらっている。	入居時に、「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を本人・家族に説明し、意思の確認をしている。状態の変化により、本人・家族の意向も変化してくるため、その都度、確認している。医師とは、24時間の連絡体制と連携があり、家族が付き添う場合は、ベッドも用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応方法は周知している。実際は未経験なので、定期的に行えるよう実践力を身に着けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回は消防署立ち合いで訓練を行っている。また月1回、火災、水害等避難訓練を行っている。	年2回の防災訓練は、事前に職員にマニュアルを回覧し、周知徹底させている。訓練の際に、消防署より、災害時において、職員の役割分担、初期消火、避難誘導等のアドバイスも受けている。緊急時には、家族に一齐メールを配信する仕組みがあり、協力を依頼している。	災害時の一時避難場所として、地域住民に事業所の利用を呼びかけ、地域密着型事業所の機能の発揮に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けをしている。特に排泄、入浴、更衣時気をつけている。その人にあった声掛け、人生の先輩であることを忘れずに対応している。	女性専用のトイレがあり、小声で声かけ、誘導を行い、脱衣所には、カーテンを取り付け、プライバシーを確保している。毎月、法人グループで接遇に関するテーマを設けており、職員は毎日テーマを意識しながら利用者に接している。9月は「目線・笑顔・声のトーン」である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を1つではなく2~3個から選んで頂いたり、「外出したい」等と要望がある方が言い出しやすいような雰囲気作りをしている。言葉に表せない方はうなづきやしぐさで自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方は季節にあった身だしなみ、ネイルやヘアカラーなどを楽しんでおり、鏡を見る機会を作るなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあった食事形態で提供している。ご利用者の苦手なものは代替え案を出している。献立や皮むき、炒め物に盛り付け、台拭き、片付け等出来る事を一緒にしている。	献立は、利用者の希望を聴きながらメニューを決めている。利用者は、職員と一緒に、買い物、準備、調理、盛り付け、後片付けまで、出来る人が関わっている。食事は全て手作りで、利用者は好きな席で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった形状での提供。水分量を記録に残し、1日の摂取量を気を付けている。水分を取りにくい方はゼリーを出すなど工夫している。個人差はあるが、その方のニーズに合わせる努力をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時、お茶を飲んで頂いたり、朝夕の歯磨きの声掛け等の支援を行っている。希望者の訪問歯科との連携、毎年1回無料歯科検診で口腔内の状態の把握に努め、ご家族に報告している。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間や水分摂取量を確認し、トイレで排泄できるように誘導し支援を行っている。	職員は、昼夜共、トイレへ行く利用者を見守りながら、自立に向け支援している。また、利用者の状態に合ったパッドを適切に使い分け、排泄用品の使用量を減らす工夫を行っている。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い食材やヨーグルト、牛乳、フルーツなどの摂取、体操、腹部マッサージなど自然な排便を促すよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日準備し、ご本人のタイミングに合わせている。お風呂が好きじゃない方は、タイミングを見計らい、楽しんでもらえるよう支援している。	週2回の入浴が基本であるが、希望に応じ毎日でも可能としている。拒む利用者には、声掛けに工夫して対応している。入浴を楽しんでもらうために、入浴剤を入れている。また、リフトの利用で、安心・安全な入浴が実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが乱れないように、休息してもらっている。夜間は安心して気持ちよく眠って頂けるよう主治医とも相談しつつ支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からは薬の説明書を発行、副作用や注意点などアドバイスをもらい職員と共有している。服薬の支援については主治医、薬局と相談しながら、一人ひとりに合った方法で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常会話から拾い上げた嗜好品や気分転換の方法を実施できるよう心がけている。散歩や習字など入居前からの楽しみを続ける工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を受け、戸外へ出かけられるよう努めている。季節毎の桜やバラ、あじさい、百合等花見に出かけている。	普段は、買い物や散歩に出かけている。本人の希望で喫茶店へ行きたい時は友人と出かけた。美容室へ行きたい希望があれば家族と行くなど、協力が得られている。また事業所からも季節の花見にでかけている。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事業所で管理しているが、買い物先でお金の支払いができる方には、お財布を持ってもらい、そっと見守っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方もおられ、自由に電話を使用している。もっていない方は事業所の電話を使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレやキッチン、洗面所の水まわりは使用後綺麗にするようにし、臭いにも注意している。リビングや廊下に季節の花やちぎり絵、短歌等をかざり、季節を感じて頂けるようにしている。	共有空間には、季節毎に利用者の手作り作品を飾っている。廊下は、車椅子でも充分対応できる広さがあり、洗面台は、使い勝手の良い位置に配置されている。トイレも広く清潔感がある。利用者は、家族が持ってきてくれる雑誌を、ゆっくりとソファで読むなど、居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の個々のテーブルは離れており、おしゃべりしたい時は席を近づけ楽しく過ごしたり、新聞や雑誌をみて独りで過ごしたりと思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、一人ひとりの好みや居心地の良さを重点に置き、ご本人やご家族と相談しながらのお部屋づくりをお願いしている。ご自分の作品や思い出の写真、お孫さんの作品など、思い思いの品を飾っている。	入居時に、居室はベッドか畳敷きを選択できる事を説明している。転落予防のため、畳敷きを選択している利用者もある。使い慣れた布団やタンス、仏壇、鏡台などを持ち込み、壁には家族の写真を飾るなど、自分らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており手すりも設置されている。トイレの案内表示も壁に貼り、困る事なく自立した生活が送れるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	平成30年8月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「自由に笑って過ごしましょう」を意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時や買い物時など挨拶をするところから地域の方々と交流するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と近所にでかけた先での散歩や買い物など日々の生活ぶりで認知症の方の理解、支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開き、事業所の状況や取り組みを報告している。その時の話題やひやりハットについてのアドバイスや質問を頂く事で、サービスに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実情やケアの取り組みについては運営推進会議で報告している。ひやりはっと事例など報告し意見や助言を伺っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会を開いている。2ヶ月毎に身体拘束をしないよう検討会議を開き、理解に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングの時間内に学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることがないように職員同士お互いに注意出来るように努めている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等については法人代表、管理者が立ち会い、十分説明している。ご利用者やご家族の不安や疑問点はいつでも聞いてくださいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人やご家族から意見や要望がある時はお聞きし、職員同士共有できるよう努めている。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで議題にし、良い事は反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回の昇給がある。法人内には委員会があり、取り組みについて代表者は評価を行い、各自向上心を持って取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修や実務者研修などに参加するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では社員旅行などを通し、交流する機会を設けている。外部の同業者とはなかなか交流する機会が作れていないため、交流の場を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の前にご本人と面談を行い、困っていることや要望などお聞きしている。ご本人が安心できるまで寄り添っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から要望等聞かせて頂いている。居室の準備段階から職員もご家族と関わり、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居頂いた時に、まず必要な支援を最優先で行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員が力をあわせ、感謝しながらよい関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を見極めながら、ご家族と一緒にご本人を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように、馴染みの人や場所に行けるように支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から関係を見極め、利用者同士の穏やかな関係が築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば相談、支援に応じる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握、本人本位に検討を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中からヒントを見つけ、職員で共有できるように記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの記録を残し、1日の生活が把握出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議で話し合い、現状にあった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の記録を残しており、必要であればアセスメント用紙にも記入して情報共有し、介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズはすぐに職員間で共有し、アイデアを出し合って、取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板を回したり、小学生のみまもり隊をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療が受けられるように主治医に伝えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問があり、認知症のため、ご本人が伝えられない事を報告、相談し、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医に情報提供をお願いし、入院先との連携に努めている。入院先にはこまめに足を運んで病院関係者と情報交換し、早期退院の受け入れが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居時に説明しご家族に方針を立ててもらっている。入居後はタイミングごとに事業所の出来る事を説明し、方針を見直してもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時のマニュアルがあり、応急手当や初期対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練や水害訓練を行い、スムーズに避難誘導ができるように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや尊厳に配慮しつつ、言葉かけや支援ができるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望、自己決定ができるように働きかけている。自己決定が難しい方にはその人の思いを掴むよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース・希望に沿って支援ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけたり、爪のマニキュアなどのおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものを作ったり、できる方とは一緒に準備・調理・片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、栄養バランスに気を配りつつ支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けや支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の失敗やおむつの使用を減らしてトイレでの排泄ができるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料・食品、果物を摂って頂いたり、体操の声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方が入浴しやすいタイミングを図り、入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安やさびしくて眠れない等、その時の状況に応じ、話を聴いたり一緒に過ごしたりの支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用、用法、容量、目的について理解、飲み忘れがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや嗜好品、気分転換ができるようにその方の好きなことを把握し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の計画を立てて、ゆり園、あじさい、桜見、バラ園に出かけている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時にお金を使えるように支援している。支払いが難しい方は代わりに支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や季節のはがきを送る事が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう花を飾り、壁絵を作成している。また、月ごとのカレンダーに季節のイラストを取り入れ、わかりやすい工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで気の合った方とおしゃべりを楽しめるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを置き、居室で居心地よく過ごして頂けるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に物を置かないようにし、ひと目でわかるようトイレなど案内表示をしている。物品一つ一つにも記名しご本人が自分のものとすぐ分かるようにしている。		